

愛するオンヌリ教会聖徒の皆様へ

生きておられる主イエス・キリストの恵みと平安が共にあられますように祈ります。

コロナ19の拡散によって、大韓民国が深刻な危機に置かれております。今は、すべての聖徒が神様の御国の民であり、また大韓民国の国民としての知恵を持って対処していくべき、大変重要な時期であります。一部の教会での団体感染の事例を通して、新天地集団の感染事態と、大衆施設として分類されている教会の礼拝と活動は社会的な不安の要素の一つとなりました。またこれからの何週間は、より大きな伝染病の拡散を防がなければならない、決定的な期間になると思います。危機の時期に、教会は構成員だけでなく、社会全体の安全のためにも協力しなければならない使命もあります。このような状況の中で、オンヌリ教会は**2月26日(水)～3月14日(土)まで**、教会の礼拝堂での公の礼拝と平日での集まりを中止することに決定しました。**3月1日(主日)と3月8日(主日)の主日礼拝はCGNTVとオンヌリ教会YouTubeチャンネルを通して、映像礼拝をささげ、早天祈禱会(1部5:20、2部6:30)は、毎日YouTubeの生放送で、提供します。**(その他の色々な礼拝の案内は下記の詳細の指針を参考)

韓国教会史の中で、主日を守ることは大変重要な信仰的な基準であり、これを守るために大変な苦難を担った信仰の先輩たちがいました。主日礼拝を守るために北から南へ移住した方もいて、社会的な不利益を喜んで担った方たちもいます。ゆえにこのような決定が、ある方たちには信仰的に退くこととか、世に妥協することとして映ることもあると思います。それほど主日礼拝を共に守ることができないということは大変苦しいことであり、心痛むことであります。大邱のある教会の長老が生涯においてはじめて主日の礼拝をささげられないことに悲しみ涙を流したという便りは、私たちみな共感する悲しみであります。しかし、メディアが普遍化している時代になり、映像でも同時に共に神様に礼拝をささげることのできる状況になり、最善ではありませんが、第二の手段として、主日礼拝を守ることができるようになりました。教会が一時的に礼拝と集いを中断することにより、伝染病の拡散がより早く終息することができるなら、これも神様が喜ばれ、願っておられることであると信じます。

すべての聖徒たちは、各自の場で、大韓民国がこの危機から早く抜け出ることができるように神様に祈らなければなりません。また個人と家庭の敬虔の生活をもう一度振り返って見る機会とすることができますように願います。CGNTVで毎日提供する<リビングライフ>と<一日20分共同体聖書読み>、オンヌリ教会の女性の働きで毎日提供する<国のための緊急特別祈り>などの動映像をもって、共に祈りますように願います。すべての旬長は聖徒たちに対する牧会的な助けの責任を担い、団体の対話部屋とか、映像の対話などを通して、共に祈り、再び共に集まることのできる時まで、敬虔の生活が持続できるように、旬の方たちを導いてくださることを願います。オンヌリ教会のすべての牧会者たちは葬儀などの緊急な牧会的な助けの必要はいつでも行います。電話訪問などを通して、牧会の責任を誠実に履行するようにします。苦しい時期であるほど、非難と罪に定める言葉は避け、とりなしと励ましの祈りをもって、すべての国民がこの危機を克服していくことに、オンヌリ教会の聖徒が先立っていくことができますように願います。神様が**大韓民国を守ってください**、また**韓国の教会を守ってください**あることを切に祈ります。

オンヌリ教会 イ・ジェフン牧師